

『HUMAN LOST』

原作

：太宰治

「HUMAN LOST」「東京八景」より。

脚色・構成：広田淳一

【配役】

太宰治 …… 中村早香

佐藤みゆき

荒木昌代

榊菜津美

杉亜由子

【搬送】

早香は机の前に座り、原稿用紙に何かをカリカリと書きつけている。劇場内に、その鉛筆の音だけが響く。マイクでその音を集音している。早香、一休みして筆を休め、以下、セリフ。

早香

東京武蔵野病院、津島修二つしましゅうじのびょうしよ殿病床日誌。

入院、昭和十一年十月十三日。

退院、昭和十一年十一月十二日。

病名、「慢性パピナール中毒症」。

音響：SE、いつからか雨の音。

年齢、二十八歳。

生年月日、明治四十二年六月十九日。

家計の主なる職業しゆ、文士。

氏名、太宰治。

音響：曲きょく

早香のセリフの最中に俳優たちがゾロゾロと入ってくる。

みゆき 昭和十一年の秋、ある雨の日に私は、

早香 昭和十一年十月十三日。

複数 なし。

サヨ どうか入院してくれ。頼む。

早香 じゅうよっか十四日。

複数 なし。

みゆき 自動車に乘せられ、

早香 十五日。

アユコ かくまで深き、

なつち お願いです、内証でここから出してください。

みゆき 東京、板橋区の、

早香 十六日。

複数 なし。

サヨ 救助タノム、

みゆき 或る病院に運び込まれた。

早香 十七日。
じゅうしちにち

複数 なし。

早香 十八日。

アユコ ものかいて扇おうぎひき裂く

なっち インチキ病院、インチキ医者、退院シタラ訴エテヤル、

サヨ 裏切り者。

みゆき 一夜眠って、眼が覚めてみると、

アユコ ふたみにわかれ

みゆき 私は、脳病院のうびょういんの一室にいた。

アユコ 「出シテクレ。」

「出シテクレ。」

「出シテクレ。」

「出シテクレ。」

複数

「出シテクレ。」

音響：「出シテクレ」に紛れて、曲fadaout。盗んで消えきる。

アユコ 思いは、ひとつ、窓前花。
そうぜんか

みゆき 「HUMAN LOST」

音響：曲再び。楽曲の良きところから入りなおす。
俳優、移動。

音響、カットアウト。

照明、変化。

【十月】

早香

十九日。

みゆき

十月十三日より、板橋区のとある病院にいる。来て、三日間、歯ぎしりして泣いてばかりいた。銅貨どうかのふくしゆうだ。ここは、気ちがい病院なのだ。となりの部屋の若旦那わかだんなは、ふすまをあけたら、浴衣ゆかたがかかっている、どうも工合くあひいがわるかった、など言っていて、みんな私よりからだは丈夫で、帝王こていの如く尊厳そんげんの風貌ふうぼうをしている。惜しいことには、諸氏みんなひとしく身の丈たけよりも五寸ほどずつ恐縮きようしゆくしていた。母を殴った人たちである。

サヨ

四日目、

みゆき

私は遊説ゆうぜいに出た。

サヨ

鉄格子てつこうしと、金網かねあみと、それから、重い扉、開閉のたびごとに、がちん、がちん、と鍵の音。寝ずの番の看守けんしゆ、うろ、うろ。

みゆき

人間倉庫にんげんくらの中の、二十余名よの患者すべてに、私のからだを投げ捨てて、話かけた。「あの…」

衆人が居なくなる。

みゆき

うしろ姿のおせん様というあだ名の、二十五歳の一青年、日がな一日、部屋の隅すみ、壁にむかってしょんぼり坐って、だしぬけに私に頭を殴られても、

サヨ

僕はたった二十五歳だ、捨てろ、捨てろ、

みゆき

と低く呟つぶき私の顔を見ようとさせぬ故ゆえ、こんどは私、めそめそするな、と叱しかって、力いっぱいうしろから抱いてやって激しくせきにむせかえったら、青年いささか得意げに、

なっち

放せ、放せ、肺病はいびやうがうつる

みゆき

と軽蔑けいべつして、私は有難ありがたくて泣いてしまった。

なっち

元気を出せ。

みゆき

みんな、青草原あおそうげんをほしがっていた。

サヨ 五六百万人のひとたちが、五六百万回、六七十年つづけて囁き合っている言葉、

複数 「気の持ち様。」

サヨ というなぐさめを信じよう。僕は、きょうから涙、一滴、見せないつもりだ。

なつち ここに七夜あそんだならば、少しは人が変わります。

サヨ 豚箱などは、のどかであったー！。

アユコ 越中富山の万金丹でも、熊の胃でも、三光丸でも五光丸でも、ぐつと奥歯に噛みしめ

て苦いが男、微笑、うたを唄えよ。私の私のスイートパイちゃん。

音響・曲記

みゆき以外の俳優はひそひそ話をしている。

みゆき あら、あたし、いけない、女？

サヨ ほらふきだとさ、

なつち わかっているわよ。

みゆき 虹よりも、それから、しんきろうよりも、きれいなんだけど。…いけない？

6

アユコ 一週間、私は誰とも逢っていません。面会、禁じられて、私は、投げられた様に寝てい

るが、けれども、これは熱のせいで、いじめられたからではない。みんな私を好いてい

る。Iさん、一生にいちどのたのみだ、はいつて呉れ、と手をつかぬばかりにたのんで

下さって、ありがとう。Kでも、Yでも、Hさんでも、善四郎ぜんしろうののろま、Y子さん。逢

いたくて、逢いたくて、のたうちまわっているんだよ。三十八度の熱を、**きみ、たのむ、**

あざむけ。プウシユキンは三十六で死んでも、オネエギンをのこした。不能の文字なし、

とナポレオンの歯ぎしり。**けれども**仕事は、神聖の机で行え。そうして、**花を、立ち**

はだかって、きっぱりと要求しよう。**立て。**権威の表現に努めよ。おれは、いま、目の

見えなくなるまで、おまえを愛している。

早香 「一行あけて。」

アユコ あとは、なぐるだけだ。

早香 二十日。^{はつか}

サヨ この五、六年、きみたち千人、私は、ひとり。

なつち 蝉^{せみ}は、やがて死ぬる午後に気づいた。

みゆき ああ、私たち、もっと^{しあわ}仕合せになってよかったのだ。

なつち もっと遊んで、かまわなかったのだ。

音響：曲out

早香 二十一日。

なつち 罰。

早香 二十二日。

サヨ 死ねと教えし君の眼わすれず。

早香 二十三日。

みゆき 「妻をのしる文。」

サヨ 私が君を、どのように、いたわったか、君は識^しっているか。どのように、賢明^{けんめい}にかばってやったか。お金を欲しがったのは、誰^{たれ}であったか。私は、筋子^{すじこ}に味の素の雪きらきら降らせ、納豆に、青のり、と、からし、添^そえて在れば、他には何も不足なかった。妻^{つま}は、

職業でない。妻^{つま}は、事務でない。ただ、^{ただ}すがれよ、頼れよ、わが腕の枕の細^{ゆえ}きが故か、

猫の子一匹、いのち^{ゆた}委ねては眠^くって呉れぬ。まことの愛の有様^{ありさま}は、たとえば、みゆき、

複数 朝顔日記^{あさかおにっき}、

サヨ めくらめつぼう雨の中、ふしつ、まろびつ、あと追うてゆく狂乱^{きやうらん}の姿である。君ひとりの、ごていしゆだ。自信^{もっ}を以て、愛して下さい。君は、私を嘘つきだと言った。もっと、はつきり言っごらん。君こそ私をあざむいている。私は、いったい、どんな嘘をついたというのだ。人を、いのちも心も君に一任したひとりの人間を、^{あざむき}脳病

院にぶちこみ、しかも完全に十日間、一葉の消息だに無く、一輪の花、一個の梨の投入をさえ試みない。君は、いったい、誰の嫁さんなんだい？

なつち 「温度表を見て下さい。二十日以降、注射一本、求めています。注射しなければいいんでしよう？」

早香 「いいえ、保証人から全快までは、と嚴格にたのまれてあります。」
なつち ただ、飼い放ち在るだけでは、金魚も月余の命、保たず。

サヨ いつわりでよし、プライドを、自由を、青草原を！

早香 二十四日。

複数 なし。

早香 二十五日。

みゆき 「金魚も、ただ飼い放ち在るだけでは、月余の命、保たず。」
複数 (その一。)

なつち 断片の語なれども、私は、狂っていません。私は、狂っていません。私は、狂っていません。私は、狂っていません。

アユコ 私営脳病院のトリック。

複数 一、

なつち この病棟、患者十五名ほどの中、三分の二は、ふつうの人格者だ。他人の財をかすめる者、又、かすめむとする者、ひとりもなかった。人を信じすぎて、ぶちこまれた。

複数 一、

なつち 医師は、決して退院の日を教えぬ。底知れず、言を左右にする。

複数 一、

なつち 外部との通信、全部没収。見舞い絶対に謝絶。

複数 一、

なつち ちくおんき慰安。私は、はじめの日、腹から感謝して泣いてしまった。

音響：曲^じ

自動車と飛行機の音、雑踏。を、曲とミックスしてかけたい。

アユコ

この日、退院の約束、断腸だんちやうのことどもあり、自動車の音、飛行機の爆音、牛車ぎゅうしゃ、自転車の音、のきしりにさえ迎えが来たかと胸やぶれる思い。

なつち

自動車の音、

飛行機の爆音、

牛車ぎゅうしゃ、

自転車のきしり。

複数

「出してくれ！」

複数

「出してくれ！」

複数

「出してくれ！」

複数

「出してくれ！」

複数

「出してくれ！」

複数

「出してくれ！」

アユコ

「やかまし！」

音響：かけきり。

なつち

どしんのもの音ありて、秋の日、あえなく暮れむとす。

音響：SE、雨。

早香

二十六日。

みゆき

「金魚も、ただ飼い放ち在るだけでは、月余の命、保たず。」

複数

（その二。）

アユコ

昨日、約束の迎え来らず。ありがとう。けさ、おもむろに鉛筆執とった。

なつち

「人権」

アユコ

なる言葉を思い出す。人権（笑）こここの患者すべて、人の資格はがれ落されている。私は、享楽きやうらくのために売春婦いぢやだったこと一夜もなし。母を求めに行ったのだ。乳房ちぶさを求め

に行ったのだ。私は享樂のために、一本の注射打ちたることなし。心身ともにへたばつて、なお、家の鞭むちの音を背後に聞き、ふるいたちて、強精おろかなつまざい、すなわち用いて、愚妻よ、われ、どのような苦勞の仕事おほし了せたか、おまえにはわからなかった。食わぬ、し、食ったふりして、しし食ったむくいを受ける。

サヨ 食わぬ、しし、食ったふりして、しし食ったむくいを
なつち その人と、面とむかつて言えないことは、かげでも言うな。

アユコ 私は、この律法やくそくを守って、脳病院のうびょういんにぶちこまれた。

なつち 私の辞書けいしに軽視の文字なかった。

アユコ 私は、キリストの卑屈ひくつを得たく修業した。母よ、兄いぢじよ。一時の恥を、しので下さい。十度の恥を、しので下さい。もう、三年のいのち、保たもつていて下さい。われらこそ、光の子に、なり得る、**しかも**、すべて、あなたへの愛のため。

早香 にじゅうしちにち
二十七日。

みゆき 「金魚も、ただ飼い放ち在るだけでは、月余の命、保たず。」

複数 パートスリー
(その三。)

サヨ あなた知っている？ 教授とは、どれほど勉強、研究しているものか。

なつち 学者のガウンをはげ。

みゆき 試験を全廃せよ。

サヨ あそべ。

なつち ね寝ころべ。

みゆき われら巨万ふうまの富貴をのぞまず。立て札なき、たった十坪じゅうつぱの青草原あおそうげんを！

サヨ くだびれたら寝ころべ。

なつち 悲しかったら、うどんかけ一杯と試合はじめよ。

サヨ 十二、三歳の少女の話を、まじめに聞ける人、ひとりまえの男というべし。

音響：曲二

早香 二十八日。

アユコ スウィート・ピイは、蘇鉄そてつの真似をしたがる。

早香 にじゅうくにち
二十九日。

なつち 十字架のキリスト、天を仰あおいでいなかった。

早香 三十日。

サヨ 雨の降る日は、天気が悪い。

早香 三十一日。

みゆき ナポレオンの欲していたものは、全世界ではなかった。タンポポ一輪の信賴を欲していただけであった。われより後に来るもの、わが死を、最大限に利用して下さい。

【十一月】

この時には何かが、「落ち切っている状態」になっていてほしい。

早香 十一月一日。

なつち 実朝をわすれず。

早香 二日。

みゆき 誰も来ない。身も骨も、けずられ、むしられる思いでございます。千サの葉いちまいの手土産で、いいのに。

早香 三日。

アユコ 不言実行とは、暴力のことだ。手綱のことだ。鞭のことだ。いい薬になりました。

早香 四日。

サヨ 晩秋騒夜、われ完璧の敗北を自覚した。一銭を笑い、一銭に殴られたにすぎぬ

アユコ 私の瞳は、汚れてなかった。

サヨ 「水の火よりも勁きを知れ。キリストの嫻々の威厳をこそ学べ。」他は、なし。

アユコ この日、亡父命日。

早香 五日。

みゆき 逢うことの、いま、いつとせ、早かりせば、など。

早香 六日。

サヨ 「人の世のくらし。」

なつち テニスコート。

サヨ ポプラ。

なつち 夕陽。

サヨ サンタ・マリヤ。

なつち ハアモニカ。

みゆき 「つかれた？」

アユコ 「ああ。」 「つかれた？」

みゆき 「ああ。」

サヨ これが人の世のくらし。まちがいなし。

早香 七日。なのか

なつち 言わんか、「死屍シシヤに鞭打むちうつ。」言わんか、「窮鳥きぼうちようを圧殺あつぱつす。」

早香 八日。ようか

みゆき かりそめの、人のなさけの身にしみて、まなこ、うるむも、老いのはじめや。

ここから徐々に起きていく。

早香 九日。こののか

アユコ 窓の外、庭の黒土こくどをばさばさ這はいずりまわっている醜みにくき秋の蝶ちようを見る。並なはずれ
て、たくましが故に、死しなず在ありぬる。はかなき態ていには非あらず。

早香 十日。とおか

サヨ 私が一ばん悪いのです。私のアクが、そのまま素直に私へ又はねかえって来ただけのこ
とです。よき師よ。よき兄よ。よき友よ。姉よ。妻よ。

アユコ ゆるせ。

サヨ 亡父しよふちうも照覽しやうらん。「うちへかえりたいのです。」

なつち 「うちへかえりたいのです。」

音響：曲out SE雨、残し。

アユコ 笑われて、笑われて、つよくなる。

早香 十一日。

アユコ 無才、醜貌しゅうぼうの確然かくぜんたる自覚こそ、むっと凶太い男を創る。たまもの也なり。

サヨ 家兄ひとり、面会、対談たいだんいちじかん一時間。

早香 昭和十一年、十一月十二日。この日、午後一時半、退院。

音響：SE雨、out。音響無音。

HUMAN LOST-退院

早香 一箇月そこで暮して、秋晴れの日の午後、やっと退院を許された。

みゆき もう薬は、やめるんだね。

早香 …。

みゆき やめるんだね。

早香 僕は、これから信じないんだ。

みゆき そう…。

早香 信じない。

みゆき うん。人は、あてになりませんよ。

早香 おまえの事も信じないんだよ。

音響：曲

早香 私は、三十歳の初夏しよか、はじめて本気に、文筆生活を志願した。思えば、晩い志願であつた。私は下宿の、何一つ道具らしい物の無い四畳半の部屋で、懸命けんめいに書いた。

アユコ なんじ 汝らの仇を愛し、テキ 汝らを責むる者のために祈れ。

なっち あなた方の敵を愛し、のろう者を祝福し、虐待し、迫害する者たちのために祈りなさい。

アユコ 天にいます汝らの父の子とならんため為なり。
なっち あなた方が、天におられる父の子供となるためだ。

早香 下宿の夕飯がお櫃ひつに残れば、それでこっそり握りめしを作って置いて深夜の仕事の空腹に備えた。こんどは、遺書として書くのではなかった。

アユコ 天の父はその陽を悪しき者のうえにも、善よき者のうえにも昇らせ、雨を正しき者にも、正しからぬ者にも降らせ給たまうなり。

サヨ その方は悪い者の上にも良い者の上にもご自分の太陽を昇らせ、正しい者の上にも正しくない者の上にも雨を降らせて下さるからだ。

早香 こんどは、遺書として書くのではなかった。生きて行く為に、書いたのだ。

アユコ なんじら己おのれを愛する者を愛すとも何の報むくいをか得うべき。兄弟にのみ挨拶あいさつすとも 何の勝まひることかある。

みゆき 自分を愛している者たちを愛したからといって、あなた方に何の報いがあるだろうか。自分の友人たちだけにあいさつしたからといって、何の優れたことをしているのか。

早香 然らば、

みゆき だから、

早香 汝らの天の父の全まったきが如く、汝らもまた、全まったかれ。

みゆき あなた方の天の父が完全であられるように、あなた方もまた完全でありなさい。

終幕。

開演前、客入れ時から早香は机の前に座っており、書きものをしている。机上にはラジオ。

以下、ラジオ番組として流れる内容。あるいは開演前にいるのは、ベンチ上、みゆきか？
音響：客入れはラジオ番組調にやる。

早香 はい。本日もやってまいりました、MUSIC BUNGAKUのお時間です。最高に素敵な音楽とここでしか聞けないとびっきりのぶっちゃけトークをお届けして参ります。それでは改めて、本日のゲストをご紹介しますましょう。「太宰治」さんです。

複数 こんばんはー。

早香 はい。まずはメンバー紹介をしなくちゃですよ、はい、私に一番近いところに座ってくれてるのがリーダーの太宰治さん、

アユコ 太宰でーす。

早香 そしてそのお隣が太宰治さん。

みゆき 生まれて、すみません。

早香 自信持って。そしてそして、太宰治さん、太宰治さん。と。

サヨ コンチワア。

なつち 戦闘、開始！

早香 はい。四人揃って「太宰治」というわけなんですけれども、もう本日はね。大変バラエティに富んだメンバーも揃っていることですし、濃いイ、お話が伺えるんじゃないかなア？ どうぞよろしくお願いしまーす。

拍手。

急に一人が泣き出す。

早香 なになにに、どうしたの？ 太宰ちゃん？

なつち なんでもありません。

早香 いや、でも…。

サヨ 違うんですよ、ちょっと酷いんですホントに。

早香 どうかしたんですか？

サヨ や、さつきなんか中也くんちゅうやにいじめられて。

なっち ホントいいってもう。

早香 中也君？ 中原中也君？

サヨ はい。

早香 また中也…。なに、殴られちゃった？ なんか殴られちゃったの？

アユコ 別にそういう、ね。

サヨ うん、暴力とかじゃないんですけど、なんかさつきかくやうら楽屋裏で、

なっち いいって。もう。

サヨ でも…。

なっち いいから。ていうかホント、すみません。

早香 話すのか話さないのか早く決めて。

なっち え、あ、はい。

アユコ だからなんかア、太宰ちゃんが普通に歩いてたら中也くんがスタスタスターって来て、

おめえ好きな花なんだよ、とかってつつて絡んで来て、

早香 好きな花？

アユコ でエ、ね？

なっち はい。モモノハナ、って答えたんですけどー、

早香 きれいよね。

サヨ そしたらなんか、ケーツ、これだから坊ちゃんはや、みたいなそんな感じで言われちゃって…。

なっち (泣く)。モモノハナの何が悪いんですか？

早香 あー、それはね。もう、しょうがない。ああいう人もいる。

アユコ ホントサイテーだよね。

サヨ マジぶっ殺してえ。

早香 あとであたしがトン汁でもぶっかけとくから。「汚れちゃった」つつてね。

一同、笑う。「ウケる」などの発言あり。

なっち もういいんですあたしなんて。もう、太宰、帰ります(さらに泣く)。

早香 ええ、ちよつとちよつと、

アユコ ハイハイ、出た出た。

サヨ
いっつも、太宰ちゃんこうなんですよ。すぐ「泣いちゃうあたしかわいいアピール」みたいな感じっていうか、めっちゃアピって来て、

なっち
違います。泣き真似とかじゃないんです。

みゆき
ワザ、ワザ。

早香
はい。進めましようかね。トカトントン、と。太宰さんも、ね。本番中だからいい加減にね。うん。しとけよ。

なっち
はい…。

早香
それじゃ、早速、伺うかがってまいりましょう、最初の質問です、たどん！（ババン！みたいな感じで）「みなさんの人生の中で一番、ああ、これは死んだな、と思ったのはいつですか？」と、はい。答え一斉に、たどん！

皆、一斉にフリップを出したらしき音。

早香
えー、「鎌倉事件」「あたま病院」「HUMAN LOST」そしてこの、「カルモチン」っていうのは、えーと、まずはじゃ、太宰さん、この「カルモチン」というのは？

みゆき
あ、睡眠薬の名前なんですけど、

早香
はいはい。

みゆき
あたし学生時代に一回、カルモチン飲みすぎて死にかけたことがありますして。

早香
あらー、

みゆき
あの時は割とヤバかったかなって、

早香
じゃあ救急車が何かで運ばれて？

みゆき
や、それはなかったんですけど、家で半日ぐらい意識失ってて。

早香
あ、じゃあ比較的大したことは…

みゆき
大変だったんです…太宰的には。

早香
ですよ…。大変だったかと思えます。あとはじゃあ、隣の太宰さんのこれ「鎌倉事件」っていうのは、えーと？

サヨ
あの、ウチ、好きになった人と一緒に、鎌倉の海に飛び込んだことがあったんですけど、あ、そんな時もカルモチン飲んでたんですけど、

早香
好きですねカルモチン。

サヨ めっちゃ飲みやすくて。相手はあの、銀座のクラブで働いてるなんかキャバみたいなやつてるコだったんですけど、結構、話が合ったっていうか、意気投合しちゃって、でなんか、「死にたくね?」「死んどけ死んどけ」みたいな流れになっちゃって(笑)、それは「死ぬかもな」って感じですね。

サヨ そんなで実際、相手のコは死んじゃってエ、自分だけなんか、助かっちゃった、みたいな…。

早香 あーもーね、全然笑えないお話で。

サヨ そんな感じですよ。

早香 えーと次のこれは? 「あたま病院」ていうのかな?

アユコ 一緒だよねあたしら?

なっち うん。だいたい一緒。

早香 ああ、これもですか? 「HUMAN LOST」ていうのは?

アユコ えつとオ、要は二人とも同じ時のことなんですけど、太宰、一時期ですね、ちよつとなんか麻薬やっちゃってる時期があったんですね、

早香 おおつと?

サヨ あ、ていっても麻酔剤ますすいざいですけど、パピナルぱいなるっていう…

早香 あー麻酔剤ますすいざい、てことはじゃあ、痛み止めのお薬か何か?

なっち すごい。えー、よくわかりましたね。

早香 んふふ……続けて(笑顔)。

サヨ 元々はその、盲腸やった時があったんですけど、そんな時になんか結構大変な手術になっちゃって、

早香 はいはい

サヨ で、痛いとかちよつと、マジ無理なんで、そんな時にまあ、沢山パピナル打ってたら、ね。

アユコ だんだんなんか、ハイ。

早香 癖になっちゃった、と、はあー…。

なっち なんか、ふあーってなるんですよふあーって。

早香 麻薬ですからね。

なっち で、なんか、太宰的には中毒とかには全然なっていないつもりでいたんですけど、周りがすごい心配しちゃったみたいで、なんか、ある日、いきなり車乗せられて、え、なになに? みたいになって、それで気づいたら、「わー精神病院だー」みたいな。

早香 なるほど、その病院の中が、「死ぬかもな」って感じだったわけですね？
なっち いや、じゃなくてなんていうんでしょうね、

早香 はい？

アユコ ま、病院の中も大概しんどかったんですけど、むしろ周りの人たちに、なんていうか、まともじゃない？ っていう風に思われてたっていうのが、全然、ホント何も聞かされてなかったんで、かなり裏切られた的な、そういうショックのおおっきくて、

早香 はいはい。

アユコ 今回の作品は、だからそういう、太宰、あん時に一回、人として終わってるなっていう、死んじゃってるなっていう、人間失格、っていうそういう気持ちを込めて、それで「HUMAN LOST」っていうタイトルにしたんですけど、

早香 ああ、HUMANをね、LOSTして。

みゆき あと、聖書の中に楽園追放っていう、パラダイス・ロストっていうのがあるんですけど、

早香 パラダイス・ロスト？

みゆき アダムとイブが知恵の実を食べちゃって、それで楽園を追い出されちゃうっていう、そのイメージともちよつと被せてて、

早香 なるほどなるほど。楽園を追放されて人間界に来たけど、さらに人間界も追放になつてしまったという、

サヨ 地獄の沙汰っすね。

早香 そうですかそうですね。えー、あ、それでは、準備が整ったようなんです、はい。えー、今回はですね、スタジオライブということで、なんとなんと、ちよつとだけあたしも、コラボで入らせてもらうことになってるんですけど、はい、それでは歌っていただきましょう、というよりはかなり語りの部分が多いみたいなんで、はい。それでは語っていただきます。太宰治さんで、「HUMAN LOST」。